
開講科目名：財政学研究 (4単位)
開設年次：1年 2年
開設学部：会計学研究科博士前期課程会計学専攻
担当者：片山 和希

《授業の概要》

1. 授業の概要

【授業の目標】

財政のメカニズムや特色を理解する。その理解に立脚して社会が抱える問題に対して財政を通じた問題解決策を考えることができるようになる。その上で、自らの考えをもち、それを的確に表現できるようになることが目標です。

【授業の概要】

国や地方自治体などの政府部門をめぐって財政規律が問われる一方で行政改革が進められています。その場合でも、政府部門の諸活動が立脚している制度や考え方が民間企業のそれとは異なる面をもっている点について認識しておくことが重要です。財政現象を捉えるには、財務技術の体系を知っておくことも必要です。

この授業では、財政学の基礎知識を確認し、財政について理解を深めます。日本の財政を主に取り上げ、制度、問題の所在、改革動向を理解してもらいます。

この授業は、修士論文で財政にかかわるテーマを取り上げる学生を念頭に置いています。修士論文の作成に向けて研究課題の設定に資すること、論文作成や報告等の技能を身に付け高めることも目指しています。

【授業の内容】

以下の各テーマについて1～3回の授業を予定していますが、受講生の理解状況等に応じて適宜変更していきます。

講義、受講生からの報告等を行い、コミュニケーションや議論を図る予定です。第1回には講義のガイダンス、オリエンテーションも行うので、受講希望者は出席が必要です。

1. 財政とは？
2. 財政赤字
3. 租税の基礎理論
4. 所得税
5. 資産課税
6. 間接消費税
7. 法人課税
8. 地方税
9. 政府間財政関係
10. 自治体財政

2. 評価方法

レポート・小論文の出来、報告・発表の出来、出席・授業態度、授業時発言等で総合的に評価します。試験を行う場合もあります。

授業には3分の2以上の出席を必要とします。

担当放棄、提出物無、無断欠席が多い等の場合、単位修得はできません。

《テキスト》

植田和弘・諸富徹編 (2016) 『テキストブック現代財政学』有斐閣 (予定)。追って指示します。

《参考書》

適宜提示しますが、さしあたり次のものをあげておきます。

林健久・今井勝人・金澤史男編 (2001) 『日本財政要覧 [第5版]』東京大学出版会。

池上岳彦編 (2015) 『現代財政を学ぶ』有斐閣。

植田和弘・諸富徹編（2016）『テキストブック現代財政学』有斐閣。
窪田修編（2016）『図説 日本の財政』東洋経済新報社。
田原芳幸編（2016）『図説 日本の税制』財経詳報社。